

## 平成 29 年度 第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 30 年 1 月 18 日（木）14：05～16：30

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：7 名 島袋幸代（県立中部病院）、宮城郁美（北部地区医師会病院）、平良芳子（県立八重山病院）、樋口美智子（那覇市立病院）、佐渡山英子（県立宮古病院）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院）、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）

欠席者：1 名 島袋恭子（那覇市立病院）

陪席者：3 名 朝川恵利（県立宮古病院）、金城美奈子（県立八重山病院）、山口元子（琉球大学医学部附属病院）

## 【報告事項】

## 1. 平成 29 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

資料 1 に基づき、平成 29 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

## 2. がん患者ゆんたく会について（10～12 月）

資料 2-1、2-2、2-3 に基づき、10～12 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について報告があった。島袋部会長よりゆんたく会の構成について質問があり、琉大病院は講義と質疑応答を 1 時間行ってからフリートークを行うが質問が多く時間が延びる、那覇市立病院は講義 30 分と質疑応答後にフリートーク、県立中部病院はフリートークを行ってから講義を行うが講師が入るタイミングが難しいとのことだった。

## 3. がん相談件数（10～12 月）

資料 3-1～3-7 に基づき、10～12 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。北部地区医師会病院では、10 月が 13 件、11 月が 18 件、12 月が 9 件でほぼ院内からの相談とのことだった。県立中部病院では、9 月は少なく 11 月は多かったので相談件数が偏っている。統計も専従など届出を行った人員の対応件数だけに絞ったので去年より少なくなっている。専従だけで相談件数の半数に対応しており、院外は専従、院内は専任・兼任の対応が多い印象。院内からの連携が増えてきたがまだ広報が必要とのことだった。那覇市立病院は術前のチェック時に医療費や就労などについて聞くようにしており、周術期外来から相談に紹介されてきているとのことだった。県立宮古病院はほぼ院内からの相談であり、対面と電話での相談が半々。陪席の朝川氏より質問があり、他院では例えば病棟の入退院支援を行っているMSWなどの兼任が対応した場合も統計にカウントしているのかとの質問があり、那覇市立病院は兼任が受けた相談も一部入っている、琉大病院と県立中部病院は含めていない、北部地区医師会病院は病棟担当のMSWが受けた相談もすべて入れている

るとのことだった。また、大久保委員より各病院の人員について質問があり、琉大病院は専従1名、県立中部病院は専従1名、専任1名、兼任4名、那覇市立病院は専従1名、専任1名、兼任4名、北部地区医師会病院は専従1名、専任1名、兼任3名、県立宮古病院は専従1名、専任1名、県立八重山病院は専従1名、専任1名（週3日）とのことだった。県立八重山病院では今回から琉大病院から提供された集計様式に変更した。院内と院外の区別を付けずに入力したが、院外からの問い合わせは月3件ほどある。次回からは区別するとのことだった。新患数が増えており、相談員の介入も増えている。平良委員より集計シートの項目「10. 当該相談についての加算の有無」について質問があり、樋口委員より入院基本料等は退院支援加算のことで、その他の診療はがん患者指導管理料や在宅療養指導料などであるとの回答があった。琉大病院は院内が40件前後、院外が10件前後とのことだった。沖縄県地域統括相談支援センターからはピアサポーターの活動件数について紙面報告があった。

#### 4. 図書館まつり参加について

資料4に基づき、大久保委員より図書館まつり参加について報告があった。相談件数は4だが、チラシに関心を示す人は多数いた。一般の方に相談支援センターのアピールができたとのことだった。

#### 5. 部会各事業について

##### (1) 【施策1】 「地域の療養情報」2017年版の作成

「地域の療養情報2017年版」は2月末納入予定とのことだった。

##### (2) 【施策2】 がん相談支援センターの広報

部会事務より、11月12日、1日11日の「週刊レキオ」、1日11日の「週刊ほ一むぶらざ」にがん相談支援センターの無料広告が掲載されたこと、また、市町村の広報誌への掲載について、宜野湾市へ依頼中であることが報告された。樋口委員より、那覇市立病院での広報の取り組み例を挙げ、部会でも対象者を絞った周知方法について検討するとよいとの意見があった。

##### (3) 【施策3】 患者サロンネットワーク会の開催

大久保委員より、3月10日（土）午前開催予定で、特に希望がなければ就労をテーマにしたいとのことだった。

##### (4) 【施策4】 就労支援関係者との意見交換会の開催

資料6に基づき、大久保委員よりほぼすべての拠点病院で両立促進員を受け入れており、相談を受けた際促進員には記録票があるが、病院のインテーク記録用紙はどうしているのか情報共有したいとの提案があり、意見交換がなされた。両立促進員との研修会は開催に向けて努力するとのことだった。

##### (5) 【施策5】 相談センター満足度調査の実施

引き続き資料収集することになった。

(6) 【施策 6】 県内の相談支援センターチェックリストの作成

3月上旬に前回と同じチェックシートを事務局よりメールで送付し、各病院で記入後返信し、事務局にて取りまとめることになった。

(7) 【施策 7】 がん相談員実務者研修会の運営

資料 7 に基づき、大久保委員より 12 月 16 日に実施された平成 29 年度第 2 回沖縄県がん相談支援員実務者研修会「知的障害・発達障害とがん」について報告があった。研修は好評で、活用できる資料を講師が多く配布して下さったのも好評だったとのことである。また、樋口委員より 2 月 3 日開催那覇市立病院・県立宮古病院主催の「高齢がん患者とその家族への支援」研修会について周知があった。

(8) 【施策 8】 相談支援部会活動報告

去年度開催した地域相談支援フォーラム in 沖縄の取り組みを、樋口委員が地域相談支援フォーラム in 大分にて発表することが報告された。

(9) 【施策 9】 県内セカンドオピニオンリストの作成・公開

前回報告を行ったため、今回は報告なしとなった。

【協議事項】

1. 平成 29 年度の部会事業の評価について

資料 9 に基づき、平成 29 年度の部会事業の評価が行われた。

【施策 1】 「地域の療養情報」 2017 年版の作成は評価を 10 点とし、次年度も継続する。

【施策 2】 がん相談支援センターの広報は評価を 7 点とし、次年度も継続する。必要な人に周知が行き渡るよう効率的・効果的な広報を考える。

【施策 3】 患者サロンネットワーク会の開催は評価を 5 点とし、次年度も継続する。

【施策 4】 就労支援関係者との意見交換会の開催は評価を 7 点とし、次年度も継続する。

【施策 5】 相談センター満足度調査の実施は評価を 4 点とし、次年度も継続する。

【施策 6】 県内の相談支援センターチェックリストの作成は評価を 5 点とし、次年度も継続する。3 月に実施予定なので次年度に評価を再確認する。

【施策 7】 がん相談員実務者研修会の運営は評価を 9 点とし、次年度も継続する。研修修了者リストの公表について検討する。

【施策 8】 相談支援部会活動報告は評価を 9 点とし、次年度も継続する。

【施策 9】 県内セカンドオピニオンリストの作成・公開は評価を 10 点とし、次年度も継続する。

2. 専門部会の再編について

資料 10 に基づき、増田委員より専門部会の再編について説明があった。沖縄県の第 3 次がん対策推進計画の分野別施策に合わせて各部会の担当領域を変更することが提案され、

協議の結果、相談支援部会は3-1 相談支援、情報提供、3-2 がん患者等の就労を含めた社会的な問題（サバイバーシップ）を担当し、2-5 ライフステージに応じたがん対策については適宜対応するのが適当ではないかとなった。部会名称を情報提供・相談支援部会とすることも了承された。

### 3. 平成30年度の部会事業の行動計画について

資料11に基づき、協議の結果、来年度の部会事業の行動計画は今年度の事業計画をベースとすることになった。また、樋口委員より視覚障害者や聴覚障害者、外国人などの情報弱者に対する情報提供について他機関などと情報共有したいとの提案があり、検討することになった。また、【施策7】がん相談員実務者研修会の運営について、研修会は年1回上半期に開催とし、拠点病院が共同で開催することとなった。【施策5】相談センター満足度調査の実施について、増田委員より国がんが患者満足度調査を来年度11月に開催予定との情報提供があり、参加を検討することになった。

### 4. 【施策7】2018年度「相談対応の質保証（QA：Quality Assurance）を学ぶ」への応募について

資料12に基づき、【施策7】2018年度「相談対応の質保証（QA：Quality Assurance）を学ぶ」への応募について検討され、次年度は研修会1回開催予定のため別テーマとすることとなり、今回は見送ることになった。

### 5. 平成30年度の部会事業の予算について

平成30年度の部会事業の予算については、引き続き検討することになった。

### 6. その他

相談支援部会の委員について、来年度は引き続き拠点病院のみとすることになった。島袋部会長、大久保委員より来年度以降、拠点病院以外のがんの診療を行っている病院へ、認定がん専門相談員の配置や認定がん相談支援センターの設置について意向調査を行い、その中で部会への参加についても意向調査をしてはどうかとの意見があった。

次回の相談支援部会は4月19日（木）を第一候補とすることとなった。

## 第4回 がんサロンネットワーク会 開催報告

### 研修会概要

目的：県内で活動する患者会と患者サロンの世話人が集まり、各団体の取り組みや課題を相互に共有し、今後の活動に活かすことで、患者さんとその家族が安心して暮らせる環境づくりを目指す。

開催日時：平成30年3月10日（土）10時～12時（9時半受付）

場所：琉球大学医学部臨床研究棟1階大学院セミナー室

主催：沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

共催：那覇公共職業安定所、沖縄産業保健総合支援センター、琉球大学医学部附属病院がんセンター、地方独立行政法人那覇市立病院がん相談支援センター、沖縄県立中部病院がん相談支援センター

対象者：患者会やがんサロンの世話人、がん相談支援センター担当者など

プログラム：全体司会 大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）

1. 各患者会・患者サロンの近況報告（ここ1年の活動など）
2. 各病院での就労支援の紹介
3. 就労支援の取り組みについて

講師：産業保健総合相談支援センター・両立促進員 金城由紀子氏

那覇公共職業安定所・就職支援ナビゲーター 嘉陽めぐみ氏

4. 質疑・意見交換

閉会挨拶 沖縄県相談支援部会長 島袋幸代（沖縄県立中部病院）

参加者：計12名

参加者所属施設：患者会連合会、ぴんくぱんさあ、サバイバーナースの会、琉大病院ゆんたく会、豊見城中央病院、那覇市立病院、中部病院、中頭病院、琉球大学医学部附属病院、宮良クリニック、ハローワーク那覇、沖縄県地域統括相談支援センター

報告内容：

- 患者会の定期開催に加えて、ウィッグ相談会やリンパ浮腫の勉強会、若い方向けの定例会の開催などを行っている。地域の観覧車を点灯した市民向けのアピールや、CMやラジオ告知を行うなど積極的に広報も行っている。広報誌の作成も行っており、ここ1年以内に経験した方を制作委員にいて、より最新のわかりやすい情報になるよう工夫している。サロン運営についての研修会にも積極的に参加し、図書館や児童館との連携が非常に勉強になった。（びんくばんさぁ）
- 出張サロンの開催、ピアサポーター養成講座の開催を行った。（地域統括相談支援センター）
- 各市町村の回り開催する移動サロンを行った。離島では病院と患者会との結びつきを重要視し、離島フォーラムも開催した。講演会などでは、地元の演者がいると参加者が来やすいようなので、地元の経験者のお話も聞けるよう工夫した。今後は学校とも連携して、子どもたちへのがん教育へも寄与したいと考えている（患者会連合会）
- 定例会の開催と随時イベントも行っている。参加やピアナースの研修会も開催した。今後はAYA世代向けの会も企画したいと考えている。（ピアナースの会）
- 参加者同士のフリートークと、各テーマを設定した講演会を組み合わせ、サロンを開催している。参加者は少なく、なかなか新しい会員は増えないこともあるので、広報活動に力を入れていきたい。（中部病院、那覇市立病院、琉大病院、豊見城中央病院）
- 各病院では、がん相談支援センターを窓口にして両立促進員の出張相談の受け入れを開始した。（中部病院、那覇市立病院、琉大病院）琉大病院では、ハローワーク（就職ナビゲーター）の出張相談受け入れも行っている。他院の方でも利用できる。
- プレストセンターでは、初回治療の患者さん全員に対して看護師による面談を実施して、すぐに仕事を辞めないようアナウンスを行い、医療費に関する制度の説明やおきなわがんサポートハンドブックの配布を行っている。（中頭病院）
- 就職支援が受けられることについて知らない人が多い。もっと広く知ってほしい。

